



信州飯田

麻績の里

2019.8
No.30
大堤

大堤 世帯数: 217
(H31.4月現在)
座光寺エリア

麻績の里 座光寺便 大堤号

令和元年8月発行 ■麻績の里ふるさと応援倶楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL0265-221401



大堤は住宅地として発展してきた。今も整然とした区画に家々が立つ

大堤は昭和43年に誕生した、座光寺で一番若い地区です。名前の「大堤」は、地区に隣接する二つの大きな堤に由来します。明治4年の屋敷図を見ると、大堤一帯にはまだ家は二軒もありませんでした。寛文6年(1666年・江戸時代)の検地帳(土地台帳)には、「つつみの脇」「つつみの下」の地名が見られます。このころすでに堤があったことがわかります。



奈良市大柳生地区のりんご園にて

りんご交流、大和の国へ。

—奈良市 大柳生地区を訪問—

7月9日、パノラマファーム大門のメンバーが奈良市郊外の大柳生地区を訪れ、りんご園の摘果作業と同地区との交流を行いました。

大柳生地区のりんご園は、パノラマファーム大門が10年ほど前に、同地区の依頼を受けて植樹したものです。以来、定期的に園の手入れ・交流活動を重ねてきました。「奈良でりんご?」と思われるかもしれませんが、同地区は比較的標高が高いため、生育に問題はないといえます。

大柳生地区では、りんごのふるさとを訪ねる親子ツアー「Road of Ringo」を計画。9月21～23日に飯田市を訪れます。また10月20日に同地区で開催する「コスモス祭り」には、本場座光寺のりんごの直売も行われます。

さらに今年の収穫後には、座光寺のりんごと同地区のりんごを使ってシードルづくりが計画されています。渋谷区表参道との交流で生まれたシードルに続き、交流の第二の成果が間もなく誕生します。



「ふるさとバック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。

ふるさと味覚満載便

2,000円(送料別)



- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援倶楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 令和元年9月20日
- お届け時期 令和元年9月末頃

※代金は商品到着後にお支払いください。



座光寺美女



歩けば！が見えてくる

座光寺 19地区探訪⑱ 大堤

三六災復旧の土取場

江戸時代の嘉永4年(1851)、大門原の新田開発に続き、大堤周辺でも新田の開発が行われました。しかし現在の大堤地籍は二つの堤の下方ではないため、開発は及ばずそのまま原野として残されたと考えられます。

昭和36年の梅雨豪雨災害(三六災)の後、堤の南側で土取作業が始まりました。これは被災した中河原の復旧に充てる土を採取するためです。この土取場は現在の大堤地籍に当たりません。一面原野だった地域が、やがて大団地に変貌していく契機でした。



昭和38年に、5軒で600坪の土地を購入し、大堤に移り住んだ方の話しでは、周囲には家が2軒ほどあるだけで、高い木もなく、スキの

原野が一面に広がっていたといえます。また土壌が赤土のため大雨が降るとぬかるみ、車の通行が困難になったそうです。

「大堤」の誕生

昭和43年4月、座光寺で最も新しい地区として大堤が誕生しました。その2年ほど前の昭和41年3月の公民館報に、住宅地が造られていく様子が載っています。

「大堤に分譲住宅地 三十六六災害による農地復旧のため大堤南側の畑地約三ヘクタールの、土取場の跡地は市で買い上げ工場用地としてその一部が売られた。また土取場とその周辺に宅地造成を行うこととなり、分譲住宅四十五戸を予定している。

市ではこのほど大堤地籍に初の分譲地を造成する工事を始めた。(中略)分譲地は県道から幅六メートルの産業道路が通じており、県道まで徒歩約五分、信南バス座光寺停留所から飯田まで十二分と通勤にも比較的恵まれ、市はここに街路、排水、給水、電気工事を行い、今月末までに平均二戸当たり二百三十二㎡の宅地を造成する。(後略)」

コミュニティの歴史と現在

大堤は現在3つの「ブロック」に分かれ、その下に「組」を組織しています。独自に取り組んできた「コミュニティ事業」として「七夕祭り」があります。市営住宅横の公園を会場に、提灯行列や盆踊りが行われ、大勢の地区民で賑わいます。また、月1回の側溝の清掃は、地区誕生以来現在も続いています。

人口の増加

別表のように、大堤は昭和から平成初期に人口のピークを迎えます。中でも注目すべきは子ども数です。当時大堤全体で小学生が90人ほど。座光寺小学校の全校児童数はそのとき400名前後でしたので、実に25%近くを大堤の子どもたちが占めていたことになりました。

園児数を見ても、この数年前まで座光寺全体で80名ほどだったのが、昭和52年には150名にほぼ倍増しています。この状況に対して54年3月に大堤保育園が開園し、79名の園児が入園しました。

大堤は30代40代の若い人も多く、野球や運動会ではその力を存分に発揮しました。常勝大堤の時代がしばらく続いたのです。

新しい地区として

公民館主催の部落対抗野球大会に、大堤は昭和45年から出場しています。次第に「コミュニティ」の役割を担うようになってきました。

とはいえ誕生して間もない地区のため、他地区との違いもありました。そのひとつ財産区議会には、当初は議決権のないオブザーバーとしての参加でした。

これに対し昭和44年7月、財産区の議員選挙に大堤から1名が立候補しました。発足以来地区推薦という形で無投票が続いてきた同議員選挙でしたが、初の選挙となったのです。選挙戦に持ち込むことで、地区として疑問の声を上げる結果になりました。当時の館報は紙面で「今回の選挙は新しい動きもあつたので注目しなければならぬ。それは新居住者の代表が出馬したことである。惜しくも落選であったが、より深い理解と協力を得るために自治会に参加を願い、地区内の動きを知ってもらうことが必要である」と述べています。

コミュニティ活動の拠点となってきた公園。その向こうの赤い屋根は市営住宅。大堤の人口増の大きな要因となった

大堤誕生から5年ほど経った昭和48年に転入された方に、話を聞きました。当時の県勤労者住宅協議会が6軒の建売住宅を売りに出したのを機に、当地に居を構えました。住宅地としてはまだ発展途上であり、宅地造成が積極的に進められていたといえます。同年3月の公民館報に、その様子が綴られています。

「宅地化する座光寺 大堤の市営住宅への入居も始まり、昭和五十年頃には大堤は約二百戸という大きな住宅団地にする計画で、今も宅地造成、建築工事が進められている。(中略)伊賀良、松尾と並んで座光寺も市街近郊宅地として戸数が増加している。今後さらに都市化され住宅地化されていく可能性がありそうである。(後略)」



年	大堤人口	大堤児童数	座光寺小学校児童数
S62	773	—	409
S63	757	—	420
H 1	792	—	421
H 2	787	75	399
H 3	779	96	390
H 4	793	91	371
H 5	767	86	361

堤の話



「大堤」の語源となった二つの堤ですが、所在は原地区になります。下方の堤は開発年は不明ですが、一説に脇坂侯の時代(1617~72)とも。上の堤は重ね堤といって、安永8年(1778)に築造されています。その後明治4年の再工事により完成となりました。